



南中だより

教育目標 愛 勉学 自主性 健康

令和2年11月10日

東久留米市立南中学校

校長 小川 高弘

南中スポーツデイ

校長 小川 高弘

コロナウイルス感染拡大防止のために中止しました運動会の代替として、10月28日(水)に、「南中スポーツデイ」を開催しました。事前の学年練習や予行練習を行わないことと、当日の種目を減らして午前中だけの行事とすることで、授業時数確保の工夫としました。また、密を避けるために、学年別の開催も検討しましたが、今年度はここまで、全校での行事を行っていないことから、最上級生である3年生がリーダーシップを発揮する場面がなく、南中生の行事への取り組み姿勢を引き継ぐために、全校での実施としました。その結果、保護者や地域の方々の応援にご遠慮いただきましたこととなりましたが、皆様にご理解いただき、ありがとうございました。



これまで学年別に違う種目を行っていた学年種目を、「大縄跳び」に統一し、縦割りクラスカラー別の合同練習を実施しました。3年生を中心に実行委員が先頭に立ち、クラス別に合同練習を行うことで、当日のクラスカラーの応援も盛り上がりました。感染症予防の一つに、「大声を出さない」があります。生徒たちもわかっています、次第に応援に夢中になり、大きな声での声援となりました。開会式で、「ケガをしない」「全力で取り組む」に加えて、「楽しむ」ことを意識して、スポーツデイに取り組むように話をしましたが、多くの生徒がその目標を達成できたと感じました。

コロナ禍での学校生活では、これまで通りにできずに方法を変えたことが数多くあります。その中には、来年度以降にも生かせることもあるはずですが、今年が特別なのではなく、新しい南中の取組を作っていくきっかけにしていきます。

新しいことを作っていくと同時に、南中にはこれまで積み重ねてきた歴史があります。11月2日の全校朝礼で、生徒にも話しましたが、11月1日は、南中の開校記念日です。南中は、昭和47(1972)年に、東久留米市で4番目の公立中学校として開校しました。今年度は創立48周年を迎え、これまでに9265名が卒業しています。現在は12学級、438名ですが、最も生徒数が多かった昭和58(1983)年には、23学級 981名の生徒が通っていたそうです。現在の1年生が3年生になる2年後には、創立50周年を迎えます。これまで積み重ねてきた歴史を大事にしつつ、これからの社会に適応できる人を育成するために、新しいことに挑戦する南中でありたいと思います。

○ 第1学年校外学習（川越） 10月16日（金）

心配していた雨も降ることなく、過ごしやすい天候の中、1年生は川越に校外学習へ行ってきました。入学以来、初めての行事となりましたが、班行動中のハプニングや現地の方との触れ合いとたくさんの貴重な体験をしてきました。実行委員が中心となって、「温故知新～決まり守り、学び楽しむいざ川越へ～」のスローガンの基、川越の魅力や文化、歴史を知り、そこから新しい知識を会得したり、班行動での協力や絆を深める校外学習となりました。



○ 後期生徒総会 10月22日（木）

事前に各学級で議案書討議を行った生徒会本部や後期委員会の活動方針・内容に対する質疑応答、採決が行われ、後期の生徒会活動が承認されました。今回は、2年生が体育館で、1・3年生は教室でリモートによる審議となりました。



○ 青少協自然セミナー（おいもほり）ボランティア 11月1日（日）・3日（祝）

35名の生徒と6名の先生が2日間に分かれて参加しました。農家の方から掘り出し方を習い、300名以上の小学生を小グループに分けて、小学生の芋掘りを手伝いました。土の感触を楽しみながら収穫する喜びを感じる一時となりました。



南中生の活躍

- ハンドボール部
 - 東京都中学生ハンドボール新人大会
 - 男子・女子 ベスト16
- 女子バスケットボール部
 - 第15回 東久留米市中学校スポーツ大会 優勝
- 男子バスケットボール部
 - 第15回 東久留米市中学校スポーツ大会 準優勝
 - 優秀選手賞 馬場 和希（2年1組）
- 人権尊重推進月間

作文部門	教育長賞	佐藤 綾美（2年3組）
	優秀賞	永井 琴子（2年3組）
標語部門	教育長賞	中原 鈴海（2年4組）
	優秀賞	三宅 理央（2年3組）
- 税についての作文 立川都税事務所長賞
 - 高野 心花（3年2組）

